

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200073		
法人名	特定非営利活動法人 オーバー		
事業所名	グループホーム ももたろう		
所在地	大分県豊後大野市三玉686番地		
自己評価作成日	平成25年3月6日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>職員全員が利用者が自分の家族ならどうするかを意識し、家庭的な環境を作るように努め、利用者がしたいときに、したいときを可能にするように努め、また、それを可能にする為の方法を常に模索している。その他、自然環境をいかし、外での活動を多く取り入れている。また、家族もスタッフの一員との考えから、常に協力してもらえる体制をつくっている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471200073&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 フェリス古国府壱番館1F		
訪問調査日	平成25年3月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>山間の自然豊かな環境に位置する1ユニットの施設で、法人内の他事業所との連携も図られています。職員間のチーム力を大切に、理念「ゆっくり・じっくり・しっかり 一瞬 一瞬に寄り添い」の実践において、一人ひとりの利用者の有るがままの姿(思い)の把握・尊重に努める様子が伺えます。個々の利用者が自宅の延長として過ごせる施設づくりを支持しており、生活暦の把握、個々の利用者の思いの傾聴と対話の充実に取り組みながら、介護力の向上に取り組んでいます。管理者・職員が志す、利用者や家族との思いの共有と、その人らしさに寄り添う職員の姿勢は、家族と三位一体となり利用者本意の暮らしぶりを支援する営みとして、これからの施設運営に一層の期待が持たれます。医療連携の確保、看護・介護の協調によるケアが図られる中で、地域密着型介護施設として、地域の方々との継続的な交流を大切にしており、地域のニーズに沿った施設づくりへの姿勢が伺えます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部からも好評で、現在も理念を継続している。職員が対応に困った時の参考にしよう指導している。	職員全員で考えられた理念に添い、住み慣れた町でその人らしく生活できる支援が来ています。地域の方もそばに寄り添う職員の姿を見て事業所のあり方を理解していただいています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加、施設行事参加への呼びかけを積極的にこなっている。また、地域の方が気軽に立ち寄れる環境を作るよう努めている。しかし、まだ多くの課題が残されている。	小、中学校の運動会、地域の文化祭、お祭りには必ず声をかけて頂いて参加しています。事業所でのそうめん流しやぜんざい、団子汁は近隣の方やご家族の方にも好評です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が困った時にはいつでも相談にこられるような環境作りに努めている。しかし、まだ、多くの課題が残されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員さんの参加により、会議の内容についても地域に理解されるようになった。また職員全体にも理解を深める為、交代での参加をおこなっている。	多数の民生委員さんの参加により、地域の状況やご家族とのつながり方などの提案を頂いたり、アドバイザーを設けることにより密度の高い推進会議となっています。またご利用者ご家族の参加により要望が言いやすい状況になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連携を取り、所長は以前連絡協議会の役員を行っている。	推進会議の他、地域密着会議での繋がりがあり、市からの提案や、勉強会も提供出来ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一切なし	職員は全員「身体拘束とは」を理解しており、職員同士が連携し、玄関の施錠はもとより、はきだし窓にもかかわらず、行動を制限しないゆったりとした自由な生活の支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろんであるが、特に言葉による虐待に職員に厳重に注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所長が成年後見業務を行っており、職員にも機会があるごとに説明しており、職員も十分理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて提示し、納得がいくまでの説明、話し合いを実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にどうすれば反映できるかを考え、実現に向けての検討をしている。	ご家族の面会時や自宅を訪問した際に、また電話でも気軽に要望や意見を聞き出せる雰囲気作りに努めています。要望があればすぐにミーティングを行い管理者と相談し対応できるよう心がけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にどうすれば反映できるかを考え、職員会議を話し合いの場にあてている。	昼食後のゆったりとした時間に話をしたり、提案したり、言いたいことが言える雰囲気が出来ています。休憩時間がほしいとの要望も実現しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	副所長は常に現場にて業務を行い、状況を所長に報告し、常に職員の意見を取り上げ職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の職場内研修はもちろん、外部の研修にも適任者を考慮し、出来るだけ多くの研修に参加できるように工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者同士の交流はまだ課題が残されるが、職員交流に関しては、前回の交流事業の実施のおかげで継続できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人、家族に見学・体験を自由に出るようにし、なるべく本人も納得していただき利用するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に十分な話し合いをし、本人の意見・家族の意見の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に十分な話し合いをし、本人の意見・家族の意見の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員として常に考え、行動し、また、その環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もスタッフの一員との考えから、家族と協力しながらの支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、自宅で過ごす時間等、可能な限り実施している。	通院の帰りに自宅に立ち寄ったり、お墓参り、法事の参加など一人ひとりの希望に沿った支援が来ています。またご近所の方が会いに来てくれたり、電話や、年賀状の支援も来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時、その時の状況に合わせて環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の方々と依然良い関係を保ち、他施設への入所の方・入院の方には、利用者と一緒に訪問している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今、その瞬間を大切に、その人の希望する事の実現に向け常に考え行動している。	突然の外出希望や、したいことの把握、表現出来ない人はアセスメントや、ご家族の話をもとに把握に努め実現できるよう努力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人より十分な聞き取りを実施し、日々のケアに生かしていくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に家族の意見を尊重しながら、月に一回の職員会議で十分に話し合い、必要があれば医療機関等の専門機関にも相談している。	状況、状態の変化があったときは、ご家族や関係者で話し合い見直しを検討しています。	状況に変化が見られた時は、関係者全員で検討されていますが、なお一層定期的にあセスメント→モニタリング→見直しをし、「何でもノート」を活用した介護計画の作成に取り組んで頂くことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何でもノートを活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応は、法人自体の特徴であり、その日・その時の対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が決定し、その希望に合わせて医療機関との連携に努めている。また、可能な限り、家族の付き添いをお願いしている。	利用者・家族の意向による医療機関の選択が行われる中で、個々の健康状態の把握に努めており、職員間の情報の共有（個人用連絡ノート）、生活環境の整備に取り組んでいます。利用者や家族の意向を大切に支援に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置がないため、協力医療機関との相談・指示で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院の協力・訪問看護・訪問医療の利用により、出来るだけ入院を避けるように対応してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族が希望する場合には、十分な話し合いの元、可能な限りの支援に努めている。また、医療機関の協力も確保できている。	安心して過ごせる生活支援への取り組みとして、緊急時の対応・看取りに関する指針について家族への説明・同意書を交わしています。医療機関との連携が確保される中で、看護と介護の協同の支援のもとで、利用者の状況の変化に伴う、家族の思いの把握と話し合いが持たれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関とも常に話し合い、訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を実施、地域の協力も少しずつしてもらえるようになってきた。	火災避難訓練（昼・夜間想定）の実施、呼び出し訓練では法人全体の連絡網による迅速なシステムが整えられています。職員1人で可能な、報告・誘導等の優先順位が課題として示されるなど、安全対策に積極的に取り組む姿勢が伺えます。	自然災害時の避難場所提供願いを含め、緊急時の対応についても検討の意向を伺いました。前進的に地域との協力も得られるようになり、一層、安全な暮らしの支援への対策づくりに期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った、声掛けを行うように努め、場所、その時の状況をと常に観察している。	全体での接遇研修が実施されています。「その人らしさを大切に寄り添う」営みを支援しており、言葉づかい・声音の配慮、プライバシーについて職員共有の理解を深めています。職員間の協調性を活かし、利用者の尊厳ある暮らしに繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を最優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日・その時を大切にし、本人の希望を最優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に、個人状況に合わせた食事を提供し、一緒に食事・おやつ準備をしたり、片付けを一緒に行っている。	調理専従の職員により、栄養バランスや嗜好、色彩や食の形状も考慮された献立づくりに取り組んでいます。職員との対話の雰囲気、食べやすさ(手作りの食卓台による高さ調整)への配慮から、温かな食の支援への気配りが感じられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療関係との相談のもと、本人に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは常に声かけ、援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをケース記録に記入し、把握。出来るだけトイレでの排泄に努めている。	個々の利用者の排泄パターンを全職員が共有する仕組みにおいて、トイレでの排泄支援(自立)に向けた取り組みに努めています。また、利用者の仕草や思い等の把握による、職員間の気づきによる言葉かけも行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と密に連絡を取りながら、対策に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後その人が入りたい気分の時に、入れるよう対応している。	基本は週3回(入浴チェック表)とし、身心の状態や気分・希望(時間帯・連日)に添える柔軟な体制の中で、一人ひとりの利用者の安全への留意、安心・心地よい雰囲気や会話を大切に、くつろげる入浴介助に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬にまついては、職員で管理しており、誰が見ても確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	～が食べたいとの希望があれば食事に対応したり、本人と買い物に行くなどしている。その人の機能・生活歴に合わせた作業をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出機会は少しでも多くなるように工夫し、ゴミ出し等も一緒に行っている。	個々の利用者の意向による日常的な外出支援(車での職員の買い物やゴミ出し)に取り組んでいます。イベントでは、花見・紅葉狩り・初詣等の行事や、家族との夕食・温泉等のドライブが実施されています。近隣への散歩や庭での外気浴やお茶会等による気分転換も日常的に行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いにより、本人が希望すれば可能にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能になるように心がけている。最近はずっと香りも意識している。	利用者の個性の尊重「会話と笑顔」を大切に支援へと繋げており、家具の配置と座席が考慮されています。職員のアイデアを活かしながら、リラックスできる空間の中で、1人ひとりの利用者がくつろげる雰囲気づくりに取り組む姿勢が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然にホールでの自分の居場所は決まってくる。一人になるには自室を利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本本人の自由にしている。必要以上に片付けたりしない。する時は本人と一緒にしている。	安全な居室づくりに配慮しながら、個々の利用者の暮らしやすさに着目しており、自宅での暮らしの延長としての生活環境を支援しています。家族の協力を得ながら、居心地良く過ごせるマイルームづくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な環境を壊さないよう、安全に過ごせるよう常に工夫している。		